

# 九州放送機器展 2010



7月7日(水)～8日(木)、「九州放送機器展2010」(略称 QBE2010)が社団法人日本ポストプロダクション協会(JPPA)九州支部の主催にて、福岡市博多区にある「福岡国際センター」で行われた。

この九州放送機器展は2004年の第1回目の開催から数えて、本年度で7回目となる。会場となった「福岡国際センター」はJR博多駅や福岡国際空港から地下鉄やタクシーで約15～20分、福岡都市高速道路からも至近と交通の便の良い場所である博多湾に面した一大コンベンションセンターエリアの一角にあり、出展社も全国各地の各社から、また来場者は地元福岡のみならず、九州全域と中国・四国地方にも及ぶといった状況で、この催しが九州地区を代表する放送機器展に成長している事が伺える。

入口から奥に向かって中央より右側のスペースが映像・放送関連機器ゾーン、

左側の約1/4のスペースが音響関連機器ゾーンとなっており、正面入口からみて突き当たり中央にはカメラゾーンのステージがあり、例年この展示会の見所の1つとなっている。

大音量で行われるようなパフォーマンスはこのステージ1カ所だけに集中しており、そのステージを囲むように池上通信機、パナソニック、ソニーがカメラやスイッチャ、モニター類を展示し、その周辺に上記各社のブースを設置しているため、他の展示会にありがちな、各所のブース同士の音が場内で混ざり合うというような雑然とした雰囲気がなく、各所で行われる同様な展示会の手本にもなりうる落ち着いた閲覧できる上手い手法である。

今年のカメラステージでは、ダンスやアートパフォーマンスのほか、お笑い芸人のステージも催したその内容は、単なる展示会でのデモというだけではない盛り上がりを見せていた。さらに、ステージ両脇には大型のLEDビジョンも設置され、カメラのスイッチング映像も上映。PR面でも効果的で華やかなステージであった。

一方、セミナー会場ではパナソニック

をはじめ、福岡ユビキタス特区 マルチメディア放送実験試験局、ゼンハイザー、キヤノン、ミハル通信、ヤマハなどが「最新情報」のセミナーを行ったほか、ソニーではカムコーダの無料点検を行うなど、出展社や来場者の絶対数こそ東京近辺にて行われる展示会と比較すれば多くはないものの、過去最多の来場者数となり、(本年実績=出展社数:82/出展小間数:150 ブース/来場者数:約1780人)、訪れている来場者には意図が感じられる質の高いイベントであったといえる。



例年多彩なパフォーマンスが繰り広げられる中央奥に設けられているステージは当展示会の最大の特徴であり、それを取り囲むように各社のカメラ関連製品が配置される集客度の高いゾーンとなっている。

**パナソニック:**地球環境保全に配慮したパナソニックのHD テープレス制作機器のコンセプトである“AVC-WORLD”が3D対応に進化。昨今盛り上がりを見せる3D映像制作に対応した「プロフェッショナル3D」制作システムを出展。本年のNABショーで注目を集めた一体型二眼式カメラレコーダー“AG-3DA1”や3D対応AVデジタルミキサー“AG-HMX100”、3D対応LCDビデオモニター“BT-3DL2550”による効率的な3D制作ソリューションを提案(写真下)。また、放送用テープレスフォーマットのデファクトスタンダード「P2HD」シリーズ(カメラレコーダー“AG-HPX375”、ポータブルレコーダー“AJ-HPM200”、スタジオレコーダー“AJ-HPD2500”、P2ドライブ“AJ-PCD2G”、モバイルストレージユニット“AG-MSU10”)や、よりローコストな「AVCHD」シリーズ(カメラレコーダー“AG-HMC45”、ポータブルレコーダー“AG-HMR10G”ほか)、小型ライブスイッチャー“AW-HS50”などの新製品も出品。



中央ステージ右側で、広いスペースにて出展したパナソニック



**ソニー:**中央のステージ横にカメラシステムを、またブースでは主に本年のNABショーにて出展した多数の新商品を展示。プロフェッショナルディスク/SxSカードの記録・再生を可能にする“XDCAM HD422”フィールドステーション“PDW-HR1”のオプションSxSカードアダプター“PDBK-MK1”をはじめ、1/2型フルHD Exmor(エクスマア)3CMOSセンサーを搭載した“XDCAM EX”ショルダーカムコーダー「PMW-320シリーズ」、スタジオカメラ使用として、HDカメラアダプター“XDCA-55” “XDCA-53” “XDCU-50”などを紹介。また、忠実な黒再現と高い動画応答性を実現した7.4型業務用有機ELモニター“PVM-740”や3D関連機器などを出展した。



3D対応業務用液晶モニターを参考出品品した他、新製品3Dカメラシステムを展示



XDCAM EXシリーズ、NXCAMシリーズなどが並ぶカメラの展示コーナー

**ストロベリー・メディアアーツ：**

山口県下関市に本社がある同社では、レンタル商品のクレーンや車載型映像装置を本年も屋外展示。また、ステージ脇の大型モニターも同社が設置するなど、本展示会とタイアップした展示方法を行っている。

会場のエントランスにはスリット型LEDスリットビジョン"SV15"を展示。1パネルが1000×500ミリメートルで、自立型ながらわずか12キログラムと軽量。短冊・サークル型などの自由な画面構成で、多彩な演出を可能にする。また、高輝度・広視野角、防滴型という特徴を生かし、車載LED「ビジョンランナー」として、迫力の大画面と機動力で野外イベントをサポートする。



会場入口のブースで展示したスリットビジョン



ステージ両脇には大型モニター"SV18"も設置

展示会場の「カメラステージ」に設置した"SV18"は、ピッチ間隔18ミリメートルのスリットで、透けて見える背景や照明との組み合わせにより、立体感のある演出が可能。10.8キログラムの軽量ユニットは大画面の構成も容易で、コンサートなど大きな会場での使用に特化している。



入口付近の屋外にはLED「ビジョンランナー」が本年も目見え。日差しの強い当日もひと際鮮明な映像を提供した

**池上通信機：**「シームレスインテグレーション」をテーマに、高品質なHDTV番組制作から、送出までをトータルサポートする映像機器を展示。取材からスタジオ収録・編集・送出システムをトータルで提案した。

ノンリニア編集機の連携によるテーブルレスシステムの紹介をはじめ、ステージ前のカメラコーナーにはフラッシュメモリー採用の「GFシリーズ」"HDS-V10"や新製品でコストパフォーマンスに優れた14bitフルデジタルハイビジョンカメラ"HDK-77EXa"などを展示。

ブースでは「GFシリーズ」と各社ノンリニア編集機との連携によるテーブルソリューションに加え、CATV局の高品質な自主制作に適した機能を追求したデジタルスイッチャー「HSS-200」などの映像機器と自動番組送出装置"Ocris"による番組送出システムを紹介した。また、報道システム、制作システムに向けたトータルファイルベースソリューションとして、コンテンツ情報と実データを一元的に管理する「iSTEP+(アイステッププラス)」を説明展示した。



ステージ前のカメラコーナーには「GFCAM」(写真)のほか、「HDK-77EXa」などを展示



フラッシュメモリーレコーダ「GFステーション」&「GFステーションポータブル」

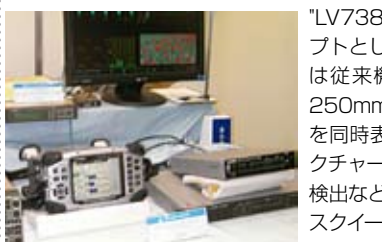


最大8chの送出が可能な自動番組送出装置"Ocris" (オクリス) の表示画面

**リーダー電子：**ビデオエンジニア向け小型マルチSDIモニター"LV5380"、小



型・薄型・軽量の"LV5330"、多入力同時表示・同時監視が可能なマルチモニター"LV5800"、HD-SDI/SD-SDI両対応で1Uハーフラックサイズのマルチフォーマットビデオジェネレーター"LT4400"、TVシグナルレベルメータ"LF990"、小型マルチSDIラスタライザ"LV7380"などを展示。



新製品のTVシグナルレベルメータ"LF990"(左の銀色の筐体)と、マルチSDIラスタライザ"LV7380"(右下)

"LV7380"は1Uで小型軽量をコンセプトとしたラスタライザであり、奥行きは従来機種より40パーセントダウンの250mm。機能は、2入力のビデオ信号を同時表示・波形表示・ベクトル表示・ピクチャー表示・音声測定・SDIステータス検出など多彩。また、ワイドモニター対応スクイーズ機能は、使用するモニターに合わせて画角を16:10や16:9または4:3から選択できる。工場オプションでアイバターン表示もできる製品となっている。

**トムソン・カノープス：**2RUハーフサイズで2in1out対応の小型サーバーと専用スローコントロールからなるライブイベント中継システム"K2 Dyno/K2 Solo" (写真上)。

LAN接続で高性能、ローコストの素材共有サーバーの新モデル"EDIUS Workgroup Server Level 5"。収録・ポン出し・2ch同期出力機能を持ち、ノンリニアとの相性も抜群のデジタル・ディスクレコーダー"TZ" (写真下)。

快適操作とローコストが評判の番組送出システム"MEDIA-EDGE-APM"。AVC Intra、XDCAMなど最新のテーブルレスフォーマットに対応した送出サーバー"K2 Summit"。

ネットワークで他拠点に配信できる安価なインフォメーションシステム"HDMA-4100/Display Content Manager"などのほか、FS機能搭載ルーター"Acappella"、世界が認める信頼と安定のモジュラー"Gecko"など、さまざまな要望に応えられるトータルソリューションを紹介した。

**キャノンマーケティングジャパン：**本年5月登場の世界初の防振機能を搭載したHDTV対応ポータブルズームレンズ"HJ15e×8.5B KRSE-V"をはじめ、同社初のファイルベースカメラ"XF305/XF300" (写真右)、約2110万画素、常用ISO100-6400、4Kのムービー映像まで撮影可能な"EOS 5D MkII"、カメラ一体型屋内型リモコン・パンチルトヘッド"BU-51H"などを出展した。



一眼レフスチールカメラタイプで4Kの高画質な動画映像の撮影を可能にした注目のEOS MOVIEのラインナップを展示



"XF305"は、同社の業務用ビデオカメラで初めてMPEG2フルHDでのファイルベース記録形式を採用しており、映像記録媒体はCF(コンパクトフラッシュ)内蔵の設計となっている

**朋栄:**会場入口付近の広いスペースにて、同社が提唱しているメディアマネジメントシステム「Media Concierge」を中心に、制作、インジェスト、編集、テロップ制作、制作サブ、送出、アーカイブといった、テープレス時代に欠かせないトータルシステムを幅広く展示。

特にこの展示会では、参考出品としてテープライブラリーのファイル化に向けたLTO-5ビデオアーカイブレコーダ "LTR-100HS"、700コマ/秒の高速撮影が可能なHDバリアブルフレームレート 高速度カメラ "VFC-7000" や新製品 HD/SD ポータブルビデオスイッチャ "HVS-350HS" を初展示した。

そのほか、HVS-300HSの1.5M/E版モデルで、HVS-300HSの基本機能を踏襲しながら、マルチビュー2系統、スチルストア4系統、キーヤ6系統、シーケンス機能対応など数々の機能アップを実現した小型、高性能、低価格が好評のHD/SDポータブルビデオスイッチャ "HVS-350HS"。

HD/SD/アナログ/PC混在高精細マルチビュー「MV-3200シリーズ」、HD/SDキャラクタジェネレータシステム"EzV-200HS(ワークステーションモデル)" "210HS(1U筐体コンパクトモデル)"。入力ビデオ信号にカメラタイトル、日時等の文字やロゴ、グラフィックをスーパーインポーズすることが可能なHD/SD対応



"MBP-100MP" マルチフォーマットプレーヤとMXFクリップサーバ(ベースバンドコンバータ) "MBP-110SXA"の展示コーナー

タイトルジェネレータ "LTG-50HS"。

Brainstorm eStudio上で設定した仮想カメラポジションを動かすことにより、外部カメラセンサ無し(FIXカメラ)でバーチャルスタジオ演出を実現する「簡単」「コンパクト」「ローコスト」なセンサレスバーチャルスタジオシステム"VRCAMシステム"など、各種新製品を紹介した。



"VFC-7000"はHDサイズでの高速撮影が可能なバリアブルフレームレートカメラ。可搬性に優れた小型軽量一体型構造、簡単操作により、誰でもすぐに使用が可能で700コマ/秒の高速撮影が可能な製品である



"LTR-100HS"は、最新のストレージ規格であるLTO-5ドライブを搭載したビデオアーカイブレコーダ。圧倒的な記録容量とインテリジェントなファイルシステムにより、素材/番組交換用のメディアとしての活用が可能。また、HD/SD-SDI入出力、放送品質MPEG-2コーデック、MXFラッピング/アンラッピング機能など多数の機能を搭載。LTO-5に記録されたMXFファイルはノンリニア編集システム等での利用も可能である



**イメージニクス:**今後ニーズの高まりが予想されるSDIの64入力64出力マトリックススイッチャー "ISX-6464"を参考出品した。大型ユーザーに期待しており、発売は今秋を予定。

3G-SDI、HD-SDI、SD-SDI、DVB-ASIをサポートし、入力信号を自動検出。電源の2重化を標準装備し、電源ユニットと冷却ファンユニットは、ラックマウント状態でホットスワップが可能。64入力64出力以外にも、16単位で構成することができる設計となっている。そのほか新機種としては、低価格・省スペースのSDI入力DVI出力コンバーター "CRO-SDC2"、映像信号のハムノイズ除去器 "CRO-VLR5"、解像度変換ができるHDCP対応多機能型DVIフレームシンクロナイザー "RS-1550A"、アンバランス音声入出力付きHDCP対応DVI7入力2出力マトリックススイッチャー "DVAX-72"などを紹介した。

**三友:**放送局・ポストプロダクション・ケーブルテレビのテープレスシステムにマッチした新製品や最新のテクノロジーを搭載し、コストパフォーマンスに優れたこれらの製品による編集から送出版までのワークフローを、完全ファイルベースで紹介した。

●さくら映像 Prunus/NCexp:プロ仕様でありながら、リニア設備の更新にも耐え得る即戦力を持つノンリニア編、取り込み～編集～書き出しまで作業効率を落とすことのないストレスフリーの環境を実現する。オペレーションの簡便性、スピード感のある操作性、国内メーカーの安心感に加え、テープレスメディア・ファイルベース・サーバーシステムへ柔軟に対応できる。各種コーデックに対応しテープレスシステムにマッチしている。



●IDX PlayMagic:信頼性の高いSSD(Solid State Drive)を採用した、画期的な映像・音声送出の小型プレイアウトサーバーPlayMagic"MFP-100"+インターテックAPCソフト"CONTRUST"を、PrunusやDDPと合わせてワークフローの紹介をした。

●DDP:DDPネットワークサーバーによる効率的なワークフローの紹介をした。各種ノンリニア編集機に対応した圧倒的な高速アクセスを実現する。コストパフォーマンスに優れたDDP24Dと2Uの筐体に24のSSDを搭載し、1.5GB/秒を超えるデータ転送レートを維持する新製品"DDP24SSD"も展示。さらに10Gイーサネットの環境における高速アクセス環境を紹介した。

**ビデオトロン:**イメージニクスと共同ブースで「70モジュラーシリーズ」「90シリーズ」「静止画ファイル装置」「小型モニタ」などを出展。

館内自主放送MPEG2エンコーダー付OFDM変調器"IBO-90RF"は、HD/SDエンコーダー、OFDM変調、TS多重機能を1台に搭載。既存の館内アナログ共聴設備を、低コストでデジタル化する製品。また、VBUS70モジュラーのタイトルジェネレーター"TG-70V"は、ロールタイトル、静止タイトル、カラープレートと同時に映像にスーパーできる装置。専用ソフトで文字や設定を入力し、簡単にテロップ作成が行え、情報番組やカメラタイトルに適している。また、L字合成装置と組み合わせれば、L字放送が容易に実現可能。このほか、転がしタイプの低価格コンバーター「25シリーズ」も出展。



**アストロデザイン:**液晶モニタでは、VE卓向けHD17インチ液晶マルチモニタ"WM-3204"、送出監視向け波形モニタ"WM-3217"などの17インチクラスをはじめ、5インチワイド液晶モニタの"DM-3105-B" "DM-3105"などを展示。オーディオモニター用のジャンルでは、コンパクトでリーズナブルなIUサイズの新製品"AM-3800-A"が登場。3G/HD/SD-SDI信号からエンベデッドオーディオを分離し、スピーカー(ヘッドホン)で同時に2chまでモニタリングが可能。エンベデッドオーディオのチャンネル設定選択スイッチにより、CH1/2、CH3/4、CH5/6、CH7/8の組み合わせでチャンネルペアごとにモニターできる製品である。

また、新製品HDTVインサータ"HD-1668"は、6系統のスーパー入力を備え、各種HDTVフォーマットに対応している製品。そのほかMPEGのエンコードを内蔵し、VHF/UHFへ変調を行うOFDM変調器"CT-5900"や、独自アルゴリズムTERA astrosnapを12ビット演算処理に拡張し、高画質を実現したフレキシブルスキャンコンバータ"SC-2065"などのほか、エンコード内蔵OFDM変調器"CT-5900"なども展示した。



**ネットワークエレクトロニクスジャパン:** 新発売の BON 社製 "BTM-170 LS" は、アナログおよび SD/HD-SDI ビデオ画像の品質チェックに必要な基本性能を搭載した 17 インチの LCD ピクチャーモニター。



ローコストながら 10 ビット画像プロセッサの高解像度、各種セーフティーマーカーや SDI エンベデッドオーディオレベルメーター表示、タリライト付きのスタンダードモニター。ラックマウント金具を併用すると、19 インチラックモニターに適した製品になる。

一方、Nevion 製 "Flashlink" は、ASI、SD/HD-SDI、3GHD-SDI に対応した光ファイバー伝送装置に、高感度の O/E コンバーターを組み合わせて 100 キロメートル超の長距離映像伝送を可能にする。光アンプ中継機を併用せず、高画質・低遅延で長距離映像伝送システムを構築する場合に適している。



**アスク:** 同展には、AJA Video Systems 社の非圧縮 SD、HD、Dual Link HD、2K を扱うキャプチャカード "KONA 3"、CineForm 社製品で AJA KONA 3 を使用して、3D 編集、再生出力が可能な編集システム "Neo3D"、Cache-A 社製品の LTO-5 に対応した LTO アーカイブアプライアンス "Pro-Cache5" などを出展。

アスクはこのほど国内販売代理店として取り扱いを開始した CineForm 社製品を出展。AJA KONA 3 ユーザーは、KONA v.8.0 ソフトウェアと



これ 1 台でライブ映像制作からインターネット放送まで、テレビ中継車機能を集約したオールインワン・デスクトップビデオシステム "TriCaster"

CineForm Neo 3D を使用することで、ファイナルカットプロおよびプレミアプロの 3D 出力が可能になる。Neo3D は、映画、放送、ブルーレイディスク、インターネット映像配信などに向け、従来の 2D 編集環境に、3D リアルタイム編集とエフェクトツールを追加する。ウィンドウズおよび Mac 両バージョンで、各社のノンリニア編集システムにリアルタイム 3D 編集ワークフローを提供する。

**報映産業:** ファイルベース・ワークフロー関連の各社製品を紹介。

● RED、AVCCAM、XDCAM HD 422、DPX、P2 およびデジタル一眼レフカメラの最新テープレスフォーマットのビデオを、トランスコードもフォーマット変換もせずにネイティブ編集することを可能にした "Adobe CS5"。● 業務用映像制作用途



向けのファイルベースワークフローに最適な NAS ベースのプロジェクトアーカイブアプライアンスのリーディングカンパニーである Cache-A 社製品ではアーカイブアプライアンス "Pro-Cache"。同社は、Quantum 社から A-Series 関連技術ライセンスを取得し、LTO-4 をベースとした Pro-Cache を開発。そして現在

では LTO-5 をサポートした Pro-Cache5 をリリースし、より高度な機能を追加した。● ソニー製品では「XDCAM EX シリーズ」のカムコーダー "PMW-350K" とレコーダー "PMW-EX30"。● JVC 製品ではカラーシフトが少なく、上下左右 178° の広視野角 IPS パネル採用した液晶マルチフォーマットモニター "DT-V24G1"。● Evertz 社製品ではモニタリングのスタンダード製品である「MVP」のテクノロジーを踏襲し、限られたラックスペースで多くのビデオコンテンツをモニタリングする為の理想的なソリューション「VIPA シリーズ」マルチディスプレイプロセッサ "7867VIPA 16-DUO-HS" などを紹介した。

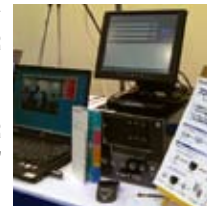
**フジノン/フジフィルム:** フジノンは業務用 HD レンズとして高いコストパフォーマンスを実現し、電動ズームスピードを高速化し操作性の向上 (2.5 → 1.0 秒) を図ったニュープロフェッショナル HD レンズシリーズ "XT20s × 4.7BRM" (写真右) や、EXT を 2.2 倍にし TELE 側焦点距離最大 138mm を実現、光学性能を一新し、周辺



50 倍の倍率を用いた低コスト BOX レンズ DIGIPOWER 50 "XA50 × 9.5"、メカ軸二操作及びサーボ操作の選択が可能

"XA50 × 9.5" や、CitySight HD & HDII など展示した。

また **フジフィルム** では DVD コンテンツをコピープロテクト付 DVD-R に変換できる、放送局向けプロテクト・DVD-R システム "KiCS" を紹介した。



**コスミックエンジニアリング:** 地デジ完全移行まで約 1 年に迫り、各業務でデジタル化が加速している。そのような中、取材から送までの各ワークフローの潤滑油的な製品群の充実と、各業務の課題解決に役立つヒントを連想させる展示を実施。「柔軟なシステムインテグレーションの出来るコスミックエンジニアリング」を訴求した。実績が急上昇中の 3D 装飾・エフェクト送出可能な HD キャラクタージェネレーター "PX3D" (写真右) は、



新基本パッケージとして、EDIUS などのノンリニア編集器へのファイルエクスポート、エフェクト送出時の効果音挿入、操作性向上機能の付加について実演。また、大幅なラインアップの増強で計 8 種類になったオーディオモニタースピーカー「SP シリーズ」を実機展示し、各ワークフローに合った機種を提案した。

**フォトロン:**本年のFIFAワールドカップにおいて放送センター(IBC)の国際映像用ホストサーバーやスロー/ハイライト用として、現地で300台以上が稼働したEVS社サーバーの最新モデル"XT[2]Plus"と、その廉価版の"XT nano", EVS社サーバーとノンリニアシステム、P2、XDCAM HDを結んだファイルベースフローを展覧。また、今大会で実際に使用されたサッカー用グラフィック



クスシステム"EPS10"を参考出品。

一方、HDフル解像度で2000コマ/秒の撮影が可能なウルトラハイスピードカメラ"FASTCAM BC2"は、優れた機能と操作性により、スポーツだけでなく、科学・教育番組、バラエティー番組、映像、コマーシャル撮影でも数多く使用されている。



**ナックイメーテクノロジー:**同社のオリジナル製品「キャノンEOS 5D Mark IIのPLマウントバージョン」(写真下)や、RGB出力方式によりさまざまな色相・彩度を実現するARRIのLED照明「PAX」を展覧。また、ARRIの新型デジタルカメラ"ALEXA"の紹介も行われた。



"ALEXA"は世界中のユーザから寄せられた要求と、90年以上に亘るアリの歴史によって培われたノウハウをもとに開発された、スーパー35mmフォーマットのフィルムスタイルデジタルカメラ。画質、操作性、厳しい環境下でも使用に耐え得る信頼性、コストパフォーマンスに優れ、加えて多彩なワークフローにも対応することで、映画・CM・PV・TVなどジャンルを問わずオールラウンドに活躍する。

**Vinten (ヴィンテン):**映像の世界で次々と可能性を広げてきたヴィンテンは、今年100周年を迎え、この記念すべき年を迎えるにあたり、新たにLF(油圧)ドラッグ方式の三脚「ヴィジョンASシリーズ」(カメラのサイズごとに全4機種)を2010年に発売した。

さらに、新規展開として米アントンパワー社のカメラ用バッテリー製品群を展示。同社の主力製品である"Dionic HC"は、HDカメラに適した電力供給性能と優れた安全性能を持つ高品質なバッテリーである。



**昭特製作所:**業務用ENGカメラ向けに設計されたシンプルな操作性を特徴とする三脚システム新製品「SP100」やENG用カメラサポート機器「SHシリーズ」をメインに展示。

「SH100」は放送用ポータブルカメラ向けに設計された高性能完全バランス雲台で、パンとチルトの粘性コントロールは、軽いトルクから重いトルクまで調整が容易で滑らかな動きが得られる。また、その姉妹機として、「SH90」と「SH120」の2機種を展示。また、ローアングルからハイアングルまでの撮影に対応し、スプレッターを必要としない4段式の軽量三脚TT-66シリーズ」などを中心に展示した。



**Manfrotto:**マンフロットのビデオサポート商品は、革新的デザインの「ブリッジテクノロジー」を採用した新商品「504HDシステム」をはじめ、さまざまな撮影状況下において、プロのためのビデオ撮影ソリューションを、多彩かつ幅広い製品群でサポートする。KATAのバッグは、機材の保護だけでなく人間工学に基づいた設計で使いやすさを追求。また、ライトパネルズからは、クールホワイトで色むらのない小型LEDライトが揃う。



**ノビテック:**スーパースローカメラとしてCM、PV、スポーツ中継、映画などで多数の実績があるハイスピードデジタルシネマカメラ「Phantomシリーズ」の最新機種"Phantom FLEX" (写真)を国内初披露。同製品は、フルHDで国内最高速2700コマ/秒の超高速撮影が可能で、従来機種の約6倍の感度アップをはかっているノイズフリーの高画質モデルである。



新製品の低価格PLプライムレンズ"uniOptics"も国内初のお披露目。シネマレンズとしての高品質を保ちながら、驚きの低価格を実現。

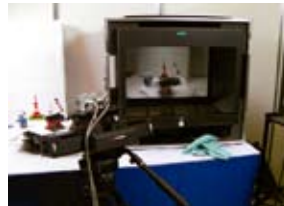
このほか、デジタル一眼レフでのムービー撮影をサポートする「ZACUTOアクセサリーキット」なども展示した。



サッカーの世界カップでも活躍したハイスピードカメラ"WEISS-CAM HS-2/DM-2"の展示デモ

**ビデオサービス:**撮影用機材のレンタルを行なう同社では、ハイスピードカメラ"WEISSCAM"(ヴァイスカム=写真左)や、EOS 7D用カメラサポートシステム"MOVIE tube PR"(セット内容=リグ本体、グリップ、VCT-14、DCマルチコンバーター、HDMItoSDI)のほか、2台のカメラの距離を人間の目幅とほぼ同じにした並行式RIGシステムと呼ばれる台座に取り付けて撮影し、

ダブルレイヤード液晶パネルと光学ハーフミラーを利用してリアルタイムで3D映像を確認できるモニター画面を組み合わせ展示並行式RIGシステム3Dカメラによる3Dモニターの実演などを展示した。



**ザハトラ・ジャパン:**三脚システムをはじめ、オートスクリプト製プロンプター、ペトロール製キャリングバッグ&アクセサリのほか、トランスビデオ(Transvideo)製高輝度液晶モニターなどを展示。

新製品としては、ペトロールより、同社創業10周年を記念して6月に発売された新シリーズ「Decaシリーズ」から代表的な製品を、またトランスビデオより6インチ液晶3Dモニターが取り上げられる。



**Libec/ 平和精機工業:**カメラの小型軽量化に合わせた設計のパン&チルトのトルク切替フリー+3段階に加え、LED照明水準器も標準装備した"RS-450"などの新製品ビデオ三脚ほか、通常使用にて20kgまで搭載可能で、しかもセットアップが簡単な小型で堅牢なジブアーム"JB-30"、同社独自の3輪方式ドリーを採用することで直線からカーブへ、ブレることなく滑らかな動きを実現したトラッキングレールシステム、小型ペダスタルシステム"P-110S"などを展示。



**武蔵エスアイ:** "MVF-2200/MVX-2200" を用いたスポーツローとポン出し送出アプリケーションを紹介。

同製品は、2レコーダー、2プレーヤーのマルチフォーマットのビデオディスクレコーダーであり、ライブ映像を収録しながら、収録中の映像や事前に収録した映像を自由に選択して送出することができる。また、2つの出力は、それぞれ別の映像音声ファイルの送出が可能。これにより、スポーツ番組用の撮って出しやスローモーション再生、スタジオ制作番組用のビデオ素材送出サーバー、緊急避難用の素材簡易編集送出サーバーなど、広範囲で応用できる。



**興和:** HDMI 信号関連機器(信号延長器、マルチスイッチャー、分配器)の新製品をメインに展示。

HDMI 信号延長器(送信器「KE101HT」/受信器「KE101HR」)は、送信器でHDMI信号をツイストペアケーブルに変換して送信し、受信器で受信することで、今まで困難だった長距離のケーブル配線を簡易化。1080p信号を100メートルまで長距離伝送が可能。また、ネットワークでRS-232Cが転送できる。

「HDMI マルチスイッチャー」は、アナログ入力3系統(アナログRGB、Y/Pb/Pr、NTSC)とデジタル入力(HDMI 2系統、DVI-D 1系統)をHDMI信号に統一して伝送する製品。出力の3分配のうち1つはツイストペアケーブルに変換して長距離延長が可能。

このほか、デジタルサイネージ用途に最適なツイストペアケーブル伝送器、学校の教室や企業の会議室などで利用できるスキャンコンバーター内蔵マルチスイッチャーなどを紹介した。



**伊藤忠ケーブルシステム:** 編集⇄素材共有⇒送出⇄アーカイブのトータルワークフローを展示。特に今回は、次世代グリーンストレージとして"Nexsan"が提供する大容量ストレージ機器を中心に紹介。この製品は次世代の低消費電力技術と、高密度、高信頼性設計の製品により、省電力のみならず、購入コストからストレージのライフサイクルにわたるコスト削減を実現する。

そのほか、ビデオテックの番組自動送出装置(APC)"VATIC-9000si OFDM"、グラスバレー"K2 Summit"、送出サーバー"Omneon Media Deck"、マルチフォーマットプレイアウトサーバー"PlayMagic" MFP-100"の紹介も行なった。



**カナレ電気:** 放送設備 / 中継現場で普及が進む光伝送機材を中心とする展示を行った。

HD-SDI、SD-SDI、DVB-ASIをマルチに光伝送できる小型光コンバーターがさらに低価格化した新製品のほか、AES-3id対応光コンバーター、100BASE-TX対応光コンバーター、アナログビデオコンバーターを出展したほか、波長多重装置、光カメラケーブルなどの紹介も行なった。

また、「細軽光マルチカメラケーブル」を展示(右下写真)。従来から約4割軽量化した光ケーブルをマルチ型として使い、競技場などの中継端子盤から中継車までの配線を1本にすることができる。



新製品VESAケーブル/音声端子付きVESAケーブル、ハイスピードHDMIケーブル、コンセントプレート用金枠



**スチューダー・ジャパン・ブロードキャスト**：本年より取扱いを開始したGrass Valley 製スイッチャー「KAYENNE」を用い、日本ビクター製2D/3D 変換装置



および3D モニター、NTT エレクトロニクス製のHDTV/SDTV エンコーダ「HVE9100」、同じくエンコーダ「HVD6100」などを接続してライブスイッチングのデモを行った。

また、同じくGrass Valley の新製品デジタル・ディスクレコーダ「T2」の取扱いも開始しており、こちらは、同社の自社製品で

ある「VISTA」などの製品紹介PRを、KAYENNE 本体ラック上に設置したモニターで、「T2」を介して行なうといった趣向を凝らした紹介方法にて行なった。



収録・ポン出し・2ch 同期出力機能を持ち、ノンリアとの相性も抜群のGV 製デジタル・ディスクレコーダー「T2」と、「VISTA 9」紹介PRの画面表示



**ヒビノ**：最新のDSP、Bluefin 2 による強力なチャンネル処理能力と比類ない安定性。多様化する放送環境に余裕を持って対応する、CALREC デジタルミキシングコンソールの最高峰「APOLLO」を中心に紹介。また、同社が長年扱っている

SHURE 製品においては、UHF-R MW ワイヤレス・マイクロフォン・システムの新製品「MW40-MABJ」などを展示した。(写真右) ラウドネスメーターは、共同ブースのtc. electronic の「SYSTEM6000MKII」、DK テクノロジーの「MSD100C」などを実働展示した。



**タックシステム**：ProTools 関連商品と Waves 社の新製品「SoundGrid」を展示した。また、映像と音声の連携を可能にするシェア・ストレージサーバDDP のデモストレージを行なった。ProTools HD/LE システム関連商品と、TAC オリジナルのモニタリングコントロールプラグイン「V-MON」、世界初の残響成分(リバーブ)除去プラグイン「NML RevCon-RR」、サラウンドプラグイン「NML RevCon-RS」を紹介。また、映像と音声の連携を可能にするシェアストレージサーバ「Dynamic Drive Pool」や、Waves 社の新製品「SoundGrid」を展示した。



SoundGrid(以下、SG)は、Waves 社が提唱するリアルタイムオーディオのためのネットワークプラットフォーム。「SG I/O」「SG サーバ」「SG プラグイン」「Mac/PC」「ネットワークスイッチ」でネットワーク(1Gbps イーサネットワーク)を構築し、豊富なプラグインを低レイテンシーで高精度に処理する。

また、このほど発売されたヤマハ製デジタルコンソール用の「WSG-Y16 I/O カード」は、ヤマハ製デジタルコンソールとWaves プラグインを連動させた操作を可能にする。



AVIOM 独自のテクノロジーにより、高品位なオーディオをフレキシブルに伝送するパーソナルミキサー「AVIOM Pro16」とYAMAHA DM1000 の展示コーナー

**ヤマハ**：好評のミキシングコンソール「M7CL」は、新機能を追加してバージョン3へ進化し、EtherSound 仕様を実現した新商品「M7CL-48ES」、タリー連動が可能になり機動力がより向上した「DME シリーズ」、デジタルミキサー用HD/SD-SDI 対応MUX/DeMUX カードやデジタルオーディオネットワーク技術「Dante」に対応したカードを展示。また、「YAMAHA × NEXO イーサーサウンドライブサウンドパッケージ」と称し、ステージボックス「SB168ES」との組み合わせによるネットワーク伝送と、昨年から取り扱いを開始した仏NEXO 社製スピーカーシステム+新製品「NXAMP」によるデモ展示も行ったほか、新登場のsteinberg 製DAW ソフト「Nuendo5」を周辺機器と併せて紹介した。



一方、デジタル伝送に関しては、ネットワークオーディオだけでなく、MADI、HD-SDI、Dante など幅広い対応を可能にしたインタフェースカードを用意。さらに、録音・映像編集ソフト「Steinberg NUENDO」をブースで実演した。

**オタリテック**：任意の映像・音声・インカム・データ信号のルーティング機能のほか、信号処理/変換機能をオンボードで搭載可能なRIEDEL 社の新しい光ネットワークシステム「MediorNet」(写真左)。



GENELEC 社の「MDC」という新技術の同軸ユニットや、DSP を搭載したミドルサイズの3ウェイラウドスピーカ「8260A」や、超コンパクトなバイアンプ2ウェイスピーカ「6010A」を展示。

また、オタリ社の光伝送システム Lightwinder「LWB-16M/LWB-64」に

専用のモジュールを装着し、LWB システムにコメントリーおよびコミュニケーションの機能を追加した「LWB Commentary System」(コメントリー Box「CB-188S」とコメントリー Box フェーダー付の「CB-189S」、コミュニケーション Box「CB190」)などを出品した。(写真右)



**SCA サウンドソリューションズ社**：プロ用機器を中心として海外から輸入/販売、自社製品の開発・販売から、設計・設備工事・保守サービスを行っている同社では、ENCO 社のDAD(デジタル・オーディオ・デリバリー・システム)の最新バージョン、TELOS 社製品で最新のIP オーディオコーデック「Zephyr/IP」、KLOTZ 社製品でスタンドアロン型ミキシングコンソールで、ラジオ局のオンエア用途に最適な「XENON」など。また、コミュニティー放送向けEDPS 放送営業支援ソフト「FORG」やフェード機能付き音声割込み装置「BEI-211」などのほか、Digigram 社の最新かつローコストタイプのIP コーデック「PYKO」などを出展した。



DAD はFM、AM 放送局、コミュニティー放送局、商業施設の自動放送装置、オーディオファイル、オンエアスタジオの諸用途に対応する



Zephyr/IP (ゼファー・アイビー)



リニア・アコースティック社のラウドネスコントロールの新製品 LQ-1000 と AERO.air 各

**ゼンハイザー・ジャパン:** 今春発売の新製品「evolution G3シリーズ」、「2000シリーズ」を中心に展示を行った。その他にもボーカル・楽器およびバックラインに対するマイクロフォンの範囲を最大限カバーするワイヤードマイクの「evolution900」シリーズや、様々なジャンルで広い活用範囲をもつコンデンサマイクロフォン「MKH8000」シリーズなどを展示した。また、evolution G3シリーズ、2000シリーズの技術セミナーも実施した。



**ローランド:** ネットライブ配信では定番のスイッチャー「LVS-800」を中核にした小型スタジオシステム。新製品マルチビューワー・スイッチャー「MVS-12」で入出力を一括表示。



動画ポン出しのできるビジュアルサンプラー「P-10」、REAC、V ミキシングシステムにも待望のコンパクトなコンソール「M-300」が登場。



映像機器では、新製品マルチフォーマット・ビデオ・スイッチャー「V-1600HD」とマルチビューワー/スイッチャー「MVS-12」をはじめ、「LVS-800」や「VC-50HD」、「P-10」、「VC-300HD」、「F-1」などによるライブスイッチング演出/収録から「ライブ・ネット配信」に至るワークフローを紹介。話題のウェブキャストにも対応。



一方、音響機器は、「コンパクト・ミキサー/フル・デジタルSRJ」として、V-Mixing システムの最新ラインアップ、ライブ・ミキシング・コンソール「M-300」を展示。ラックマウント・サイズの省スペースで10キログラムを切る軽量化を実現した、V-Mixerの最小モデル、「S-1608」をはじめとするDigital Snakeシリーズと自由に組み合わせが可能で、コストパフォーマンスの高いフル・デジタル・オーディオ伝送およびミキシングを実現する。

**ティアック:** 新製品のポータブルマルチトラックフィールドレコーダー「HS-P82」や8チャンネルオーディオレコーダー「HS-8」など、CFカードを記録メディアとした録音/再生のトータルソリューションを提案。また「DR-680」や「DR-2d」などのポータブルレコーダーのほか、定番のプロ・業務・設備レコーダーを出展した。



「HS-P82」は8チャンネルの高品質なマイクプリアンプを搭載し、映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどの収録に活用できる

「HS-8」は劇場やテーマパークなどでのサラウンドやマルチチャンネル送りが可能。オプションのリモートコントローラーにより、マルチチャンネルのポン出しにも対応。どちらも共にカラータッチパネルを採用し、シンプルで確実な操作を実現

**福岡ユビキタス特区:** FM 東京とCSK システムズでは「福岡ユビキタス特区マルチメディア放送実験試験局」ブースにて、3セグメント放送形式を使ったV-Low帯地方ブロック向けマルチメディア放送をイメージした展示を行った。



FM 東京は、「今後も福岡ユビキタス特区の3セグメントマルチメディア放送実証実験を通して、V-Low帯マルチメディア放送の先行実験を実施していく」としている。

**東陽テクニカ:** 電気信号から音響までを扱う同社では、音を測定する機器を幅広く取り扱った。本展示会では、特に放送・番組制作・PAなどのフィールドをターゲットとした、サラウンドモニターやオーディオアナライザ、音響アナライザ(写真左下)、リップシンクアナライザなどを実使用環境を模したブースにて出展した。RTW社のラウドネスファミリー、サラウンドモニターや、Audio Precision社のオーディオアナライザ「APx525」、Gold Line社音響アナライザ「TEF25」、Pixel Instruments社リップシンクアナライザ「LipTraccker」(写真右下はその画面)など、多岐にわたる製品を紹介した。



**ディーエスピー・ジャパン:** 斬新なデザインと操作性の向上を図った Smart AV社のコンソール「TANGO」を中心とした展示紹介。また、Merging TechnologiesのDAW「Pyramix」や、2kHD対応のノンリニアビデオモジュール「V-Cube」、ポン出しが必要な現場で使用するプレイアウトシステム「Ovation」の紹介も行った。このほか、アクティブ・スピーカー「PS」やポータブルHDDレコーダー「SONOSAX」を展示した。



22型タッチスクリーンと8本のフェーダー・セクションを搭載し、DAWとのイーサネット接続により、直感的な操作を実現するコンソール「TANGO」

**エレクトリ:** 高品位AD/DAコンバーターとして定評のあるAPOGEE社から、モバイル録音に威力を発揮するオーディオインターフェース「Duet」「One」を出展。ノイマン社のマイクロホンでは、ラインアップが充実してきたデジタルマイクロホンシリーズ「SolutionD」に、低価格の新型マイクロホン「TLM102」を加えたフルラインアップを紹介。Bricasti Design社からは、最高峰のデジタルリバーブ「M7シリーズ」に新たに加わった「M7M」を展示。また、MediaMatrixからは、新しい伝送規格「Dante」を搭載したオーディオシステム「NION」、ドレミラボ社からはネットワークによる新しい制作環境を実現する「Nugget」、KRK社の新しい小型モニター「VXT-4」、Sound Performance Lab(SPL)社の新しいエフェクトシステムなど、今後の制作環境に必要な不可欠なアイテムがそろそろ。



**トラフィック・シム:** 昨年からの販売しているポータブルTSレコーディングアナライザ「HACOBEE」に、J.83 AnnexC/CATV対応64QAM版が新登場。CATV、地上デジタル、BS、110度CS、124度/128度CS、デジタルラジオなどの多彩な入力に対応。簡単に持ち運びができ、現場では解析と同時に映像・音声も確認可能。TS解析、TSデコード再生(MPEG2/H.264)、TS同録、TS出力再生、RF/IFの復調、デスクランブル(B-CAS/C-CAS)に対応。



**タムラ製作所:** デジタル・オーディオ・ミキシング・コンソール「AMQ1100」(写真左)や、開発中の「X-880」(写真右)のモックアップを展示